

## 目次

挨拶「バリアフリーシンポジウムに寄せて」	2
10年のあゆみ	3
沿革	4
• 歴代室長、支所長（副室長）	4
• 支援室略年表	5
現・組織体制	6
シンポジウム資料	7
プログラム	8
講演者プロフィール	10
<b>第一部 「バリアフリーの理念と実践」 浸透の時代</b>	<b>12</b>
「バリアフリーの東京大学」10年のあゆみ～バリアフリー支援室設立から現在まで～	12
バリアフリー支援をふりかえって～卒業生の立場から～	
• 支援室への感謝と期待	15
• 障害者が触れる社会としての支援室	16
• 障害学生としての大学での学びが「今」にどう生きているか	17
バリアフリー支援をふりかえって～支援コーディネーターの立場から～	22
<b>第二部 「合理的配慮の確かな提供」 実現の時代へ</b>	<b>26</b>
〈障害者雇用〉	
障害者集中雇用PTー設立から現在までの取り組みー	26
多様かつインクルーシブな雇用の取り組み（IDEA Project）	28
〈施設バリアフリー化〉	
「建築」のできることと役割	
ユーザー・オリエンティド・デザイン User Oriented Designをめざして	32
〈発達障害等学生支援〉	
発達障害がある大学生へ成長促進的に関わること	36
発達障害のある大学生の支援	38
パネルディスカッション	44



東京大学理事・副学長  
長谷川 壽一

本日は、皆様ご多用の中、多数お集まりいただきありがとうございます。ございます。

東京大学バリアフリー支援室は、平成16年、「東京大学憲章」の精神の下、「バリアフリーの東京大学」を実現すべく、駒場IIキャンパスに設置されました。様々な試行錯誤を重ねながら、ここに10周年を迎えることができました。ひとえに、学内外関係の皆様のご支援、ご助言があつてのことと、心から感謝申し上げます。

本学では、障害のある学生・教職員への支援にあたっては、「支援の三角形」を基本的な考え方として、部局、本部、バリアフリー支援室の三者が互いに連携し、多くの学生、教職員が一体となって取り組んでまいりました。これらの取組は、障害のない学生にとっても、社会で生きる人間としての学びとなると信じております。

さて、本日は、「高等教育機関における機会均等への挑戦」とテーマを掲げて公開シンポジウムを開催いたします。これまでのあゆみを振り返るとともに、知の公共性のもっとも重要な担い手である大学として、高等教育機関におけるバリアフリー支援とはどうあるべきか、問題を提起し、これからのよりよい支援に向けて、共に学び合う機会といたしたいと考えております。10年の間に、支援を受けて本学で学び、社会に巣立っていった卒業生も多数おります。今日は、卒業生、支援にあたる教職員、研究者など様々な立場からの話題提供を用意しております。ご参加くださった皆様にとって、有意義な時間となりますよう関係者一同、心を尽くして準備してまいりました。どうぞ、最後までご静聴ください。

\* \* \* \* \*

東京大学バリアフリー支援室のシンポジウムにご参加いただきありがとうございます。

バリアフリー支援室は、学内有識者によるワーキンググループ等における1年間の議論を経て平成14年10月に設置された「バリアフリー支援準備室」の改組拡充により、平成16年4月に発足しました。障害のある学生や教職員に対する人的・物的支援を担う研究科・研究所等の部局に対して、支援室は専門的なノウハウの提供や支援のコーディネート、支援者（学生サポートスタッフ）の養成を担う組織と位置づけられています。これまで支援室では主に身体障害や知的障害のある構成員に対するバリアフリー支援を担い、10年という時間をかけて全学的な支援体制を構築してまいりました。平成28年4月の障害者差別解消法の施行に向けて、障害種別によらない、全学的な支援体制のさらなる整備とともに、構成員の理解を深める取組が求められています。

障害のある学生が、その個性と能力を伸ばし社会で活躍していく上で、専門性を高める高等教育機関としての大学の役割は非常に大きなものがあります。本日のシンポジウムでは、障害者が共に学び働ける大学をいかに創り上げていくかについて考える機会としたいと思っております。皆様の積極的なご参加を期待いたしております。



東京大学  
バリアフリー支援室長  
丹下 健



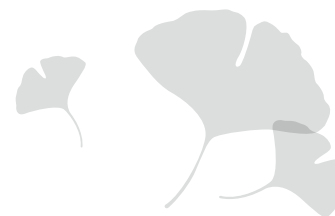


# 10年のあゆみ

---

- ・沿革
- ・現・組織体制

# 沿革



東京大学バリアフリー支援室は、平成13年設置の「バリアフリーの東京大学」を実現するためのワーキンググループ等における議論を経て平成14年10月に設置された「バリアフリー支援準備室」の改組拡充により、平成16年4月に発足しました。

バリアフリー支援室は、発足当初駒場Ⅱキャンパスの先端科学技術研究センター内に置かれていましたが、支援の急速な拡充に対応するため、平成18年4月に本郷支所を開設、翌年平成19年4月には駒場支所を駒場Ⅰキャンパスへ移転しました。現在は本郷、駒場の2支所体制で、東京大学に在籍する障害のある学生・教職員へのサポート及びキャンパスのバリアフリー化に取り組んでいます。

## 〈 歴代室長、支所長(副室長) 〉

---

平成16年度～	室長	渡邊 浩 (理事・副学長)
	副室長	加我 君孝 (医学系研究科教授)

---

平成17年度～	室長	濱田 純一 (理事・副学長)
	副室長	加我 君孝 (医学系研究科教授)

---

平成18年度～	室長	佐藤 慎一 (理事・副学長)
	副室長	加我 君孝 (医学系研究科教授)

---

平成19年度～	室長	平尾 公彦 (副学長)
---------	----	-------------

---

平成21年度～	室長	池田 信雄 (総合文化研究科教授)
	本郷支所長	松井 彰彦 (経済学研究科教授)
	駒場支所長	福島 智 (先端科学技術研究センター教授)

---

平成23年度～	本郷支所長	丹下 健 (農学生命科学研究科教授)
	駒場支所長	深代 千之 (総合文化研究科教授)

---

平成24年度～	室長	丹下 健 (農学生命科学研究科教授)
	本郷支所長	若原 恭 (情報基盤センター教授)

---

平成25年度～	駒場支所長	中澤 公孝 (総合文化研究科教授)
---------	-------	-------------------

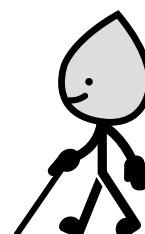
---

平成26年度～	本郷支所長	西出 和彦 (工学系研究科教授)
---------	-------	------------------

---

〈 支援室略年表 〉

平成13年 6月	「バリアフリーの東京大学」を実現するためのワーキンググループ 設置
平成14年 6月 10月	東京大学バリアフリーワーキンググループ 設置 バリアフリー支援準備室 開室
平成15年 3月 8月	「東京大学憲章」制定 「東京大学における障害をもった学生の修学の支援実施要項」制定
平成16年 3月 4月 9月	東京大学バリアフリーワーキンググループ 解散 東京大学バリアフリー支援室 発足（東京大学バリアフリー支援準備室から改組） 「東京大学における障害をもった学生の修学の支援実施要項」改正 「東京大学における障害をもった教職員の支援実施要項」制定
平成18年 4月	バリアフリー支援室本郷支所 開設（理学部旧1号館）
平成19年 4月	バリアフリー支援室駒場支所、駒場Ⅰキャンパス8号館へ移転
平成20年11月	バリアフリー支援室新体制ワーキンググループ 設置
平成21年 3月	バリアフリー支援室新体制ワーキンググループ 解散 バリアフリー支援室規則 制定
平成21年 4月 12月	専任の室長と本郷駒場両支所長を置くバリアフリー支援室新体制の発足 「東京大学における障害のある学生の修学の支援実施要項」改正 「東京大学における障害のある教職員の支援実施要項」改正
平成22年 6月	バリアフリー支援室本郷支所、御殿下の学生支援センター内へ移転
平成25年 4月	「東京大学におけるバリアフリーの推進に関する指針」制定 「東京大学における障害のある学生の修学の支援実施要項」廃止 「東京大学における障害のある教職員の支援実施要項」廃止 「東京大学バリアフリー支援室における学生及び教職員の支援実施要項」制定

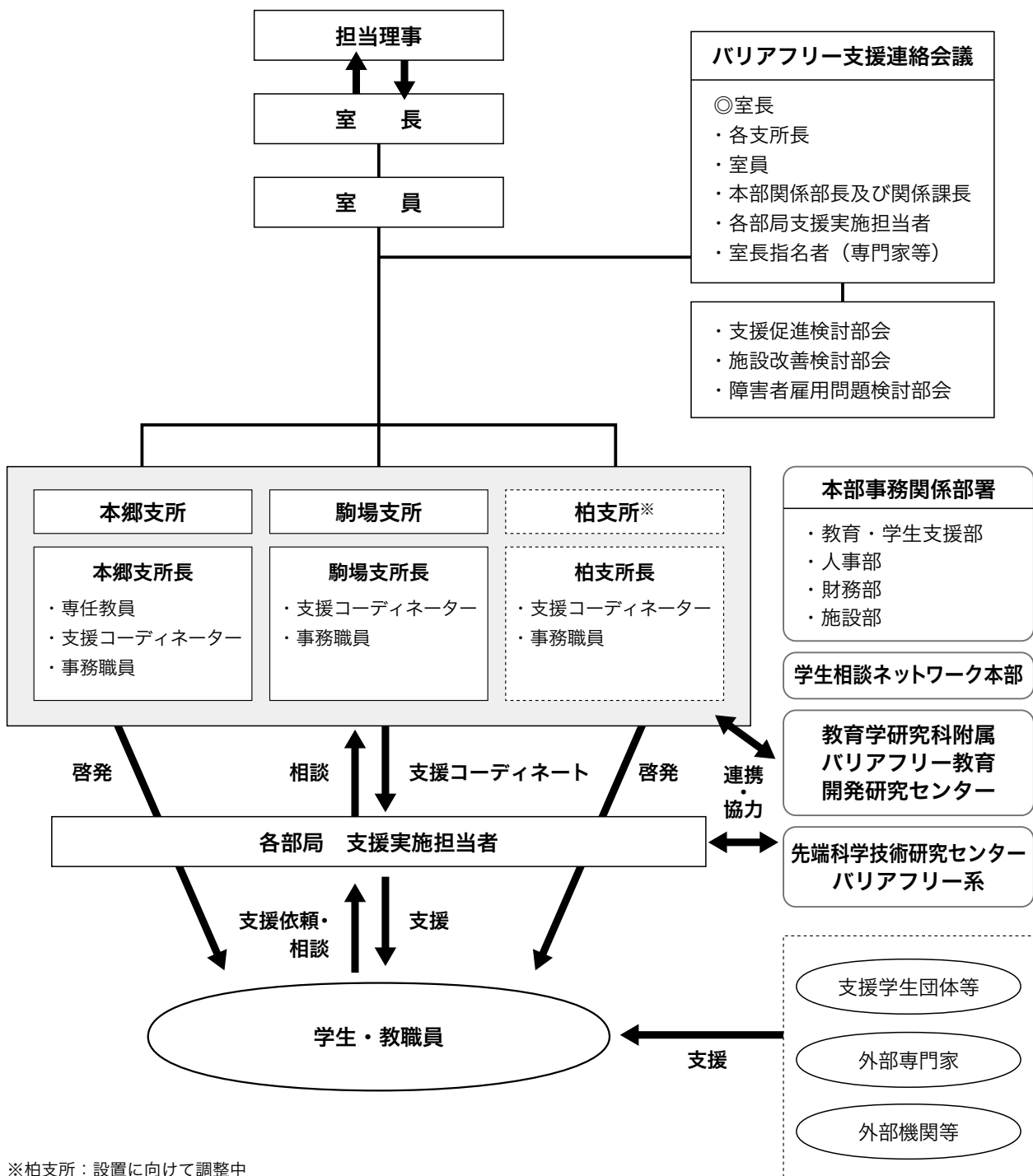


# 現・組織体制



バリアフリー支援室は、担当理事、室長、本郷・駒場の各支所長をはじめとする計36名の教職員からなる室員と、本郷・駒場各支所スタッフ（事務職員及びコーディネーター）から構成されています。

また年2回開催される「バリアフリー支援連絡会議」では、室員のほか、各部署で選任された「支援実施担当者」、その他室長が必要と認める教職員が一堂に会して、全学のバリアフリー化推進に関する事項及びバリアフリー支援室の運営において特に重要な事項について協議します。



※柏支所：設置に向けて調整中



# シンポジウム資料

---

- ・プログラム
- ・講演者プロフィール
  
- ・第一部  
「バリアフリーの理念と実践」浸透の時代
  
- ・第二部  
「合理的配慮の確かな提供」実現の時代へ  
障害者雇用  
施設バリアフリー化  
発達障害等学生支援
  
- ・パネルディスカッション

# プログラム



総合司会：安保 忠明 本部学生支援課長

13:00 開会 開会挨拶 長谷川 壽一 理事・副学長

## 第一部 「バリアフリーの理念と実践」浸透の時代

13:05 ~ 13:20 第一部 1 「バリアフリーの東京大学」10年のあゆみ～バリアフリー支援室設立から現在まで～  
丹下 健 バリアフリー支援室長／農学生命科学研究科教授

13:20 ~ 14:00 第一部 2 バリアフリー支援をふりかえって～卒業生の立場から～  
支援室への感謝と期待  
中條 美和 法学政治学研究科博士課程修了

第一部 3 障害者が触れる社会としての支援室  
栗田 光晴 工学系研究科修士課程修了

第一部 4 障害学生としての大学での学びが「今」にどう生きているか  
熊谷 晋一郎 医学部医学科卒業／先端科学技術研究センター特任講師

第一部 5 バリアフリー支援をふりかえって～支援コーディネーターの立場から～  
中津 真美 バリアフリー支援室特任専門職員

(14:00 ~ 14:10) — 休憩 —

## 第二部 「合理的配慮の確かな提供」実現の時代へ

第二部司会：中澤 公孝 バリアフリー支援室駒場支所長／総合文化研究科教授

14:10 ~ 14:50 〈 障害者雇用 〉

第二部 1 障害者集中雇用PT — 設立から現在までの取り組み—  
依田 晴樹 本部施設企画課障害者集中雇用プロジェクトチーム統括マネージャー

第二部 2 多様かつインクルーシブな雇用の取り組み (IDEA Project)  
近藤 武夫 先端科学技術研究センター准教授



14:50～15:10 〈施設バリアフリー化〉

第二部  
3

「建築」のできることと役割

ユーザー・オリエンティド・デザイン User Oriented Designをめざして

西出 和彦 バリアフリー支援室本郷支所長／工学系研究科教授

(15:10～15:20)

— 休憩 —

15:20～16:00 〈発達障害等学生支援〉

第二部  
4

発達障害がある大学生へ成長促進的に関わること

渡邊 慶一郎 学生相談ネットワーク本部准教授

第二部  
5

発達障害のある大学生の支援

桑原 斉 バリアフリー支援室准教授

(16:00～16:10)

— 休憩 —

## パネルディスカッション

16:10～16:55

【コーディネーター】

桑原 斉 バリアフリー支援室准教授

【パネリスト】

丹下 健 バリアフリー支援室長／農学生命科学研究科教授

西出 和彦 バリアフリー支援室本郷支所長／工学系研究科教授

近藤 武夫 先端科学技術研究センター准教授

渡邊 慶一郎 学生相談ネットワーク本部准教授

依田 晴樹 本部施設企画課障害者集中雇用プロジェクトチーム  
統括マネージャー

【指定討論者】

福島 智 先端科学技術研究センター教授

星加 良司 教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター講師

16:55 閉会挨拶 丹下 健 バリアフリー支援室長／農学生命科学研究科教授

17:00 閉会

情報保障：サポートスタッフ 大庭 梓、坂尾 美帆、宮下 晃、水野 博太  
岡村 耀、辻 賢太郎、鈴木 悠司、広津 侑実子

# 講演者プロフィール



## 第一部 「バリアフリーの理念と実践」浸透の時代

### 丹下 健

(たんげ たけし)

大学院農学生命科学研究科教授（専門分野：造林学）。昭和60年東京大学助手、平成7年東京大学助教授、平成12年から現職。平成14～16年に総長補佐を務め、学生部における法人化に向けた対応等の検討に加わった経緯から、平成16年のバリアフリー支援室設立時より室員となる。平成23年から本郷支所長、平成24年から室長を務める。

### 熊谷 晋一郎

(くまがやしんいちろう)

東京大学先端科学技術研究センター特任講師、小児科医。日本発達神経科学学会理事。新生児仮死の後遺症で、脳性マヒに。東京大学医学部卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児心臓科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生生活を経て、現職。専門は小児科学、当事者研究。著書に『発達障害者当事者研究』（医学書院・共著）、『リハビリの夜』（医学書院）、『痛みの哲学』（青土社・共著）など。

### 中條 美和

(なかじょう みわ)

重度聴覚障害。1996年文科一類入学、2000年法学部卒業、2008年法学政治学研究科博士課程修了。博士課程の単位修得が終わる頃ようやく支援室ができる。2006年より約8年間Texas A&M UniversityのPh.D. programに留学、3年ほど学部授業も担当。アメリカ各地でサマープログラムや学会に参加。現在、早稲田大学高等研究所助教。専門は政治過程論、地方政治、アメリカ政治。

### 栗田 光晴

(くりた みつはる)

1983年生まれ。7歳時（1990年）に下肢に障害を負い、以来車いすで生活。東京大学には2003年度入学、2009年度修了。以降現在まで電機メーカーの半導体研究開発部門にてソフトウェア開発業務に携わる。

### 中津 真美

(なかつ まみ)

バリアフリー支援室特任専門職員（支援コーディネーター）。バリアフリー支援室が開室されてから1年後の平成17年5月～事務補佐員、同年10月～教務補佐員を経て、平成20年4月より特任専門職員となり現在に至る。本郷支所には立ち上げ時から関わり、以降、他の支援室スタッフとともに、10年にわたり障害のある学生・教職員支援、全学構成員へのバリアフリー理解促進のための活動に取り組んできた。

## 第二部 「合理的配慮の確かな提供」実現の時代へ

### 障害者雇用

#### 近藤 武夫

(こんどう たけお)

専門は特別支援教育（支援技術）、発達神経心理学。東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野 准教授。博士（心理学）。DO-IT Japanサブディレクター、米国ワシントン大学DO-IT Center連携研究員。

広島大学教育学研究科助教、米国ワシントン大学計算機科学工学部客員研究員を経て現職。多様な障害のある人々の就学・就労支援に役立つテクノロジー活用や合理的配慮に関わる研究を行っている。

#### 依田 晴樹

(よだ はるき)

東京大学財務部資産課長を経て、平成19年東京大学生産技術研究所事務部長、平成20年同副所長として業務に従事しつつ、障害者雇用の促進にも取り組む。平成21年東京大学生産技術研究所特任専門員となり最先端研究開発支援室長として業務に従事する傍ら、本部施設企画課障害者集中雇用プロジェクトチームにおいて障害者雇用の促進に取り組む。平成26年4月より同チーム統括マネージャー、現在に至る。

### 施設バリアフリー化

#### 西出 和彦

(にしで かずひこ)

東京大学・大学院工学系研究科・建築学専攻・教授

人間の心理・行動・生態に基づく建築計画理論をテーマとする。

真に人間がより豊かで多様な関わりを持ちうる環境の構築を目指して、人間が環境をどのように知覚・認知しているか、あるいは環境における人間行動・生態など人間が本来的に持つ性質を実証的な観察・実験により明らかにし、それを基礎とした建築・室内・環境デザインの理論を確立することを目的としている。

### 発達障害等学生支援

#### 桑原 斉

(くわばら ひとし)

東京大学バリアフリー支援室准教授

平成12年に東京大学医学部附属病院精神神経科教室へ入局。JR東京総合病院、都立松沢病院、都立梅が丘病院などで臨床経験を積む。平成19年東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻修了。平成22年より東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野助教。平成26年4月より現職。専門は児童精神医学及び発達精神医学。発達障害を主たる対象とした臨床業務に従事する傍ら、脳画像研究、分子遺伝学研究にも参画している。

#### 渡邊 慶一郎

(わたなべ けいいちろう)

東京大学 学生相談ネットワーク本部 准教授

平成5年に信州大学を卒業し、国立精神神経センター武蔵病院や東大病院（精神神経科・こころの発達診療部）にて臨床を行って来た。

これまでの経験を生かし、現在は学生相談ネットワーク本部の精神保健支援室（保健センター精神科）とコミュニケーション・サポートルームで勤務している。

いずれも東大生を対象にしたメンタルヘルスの支援部門であり、日々診療や相談業務に取り組んでいる。